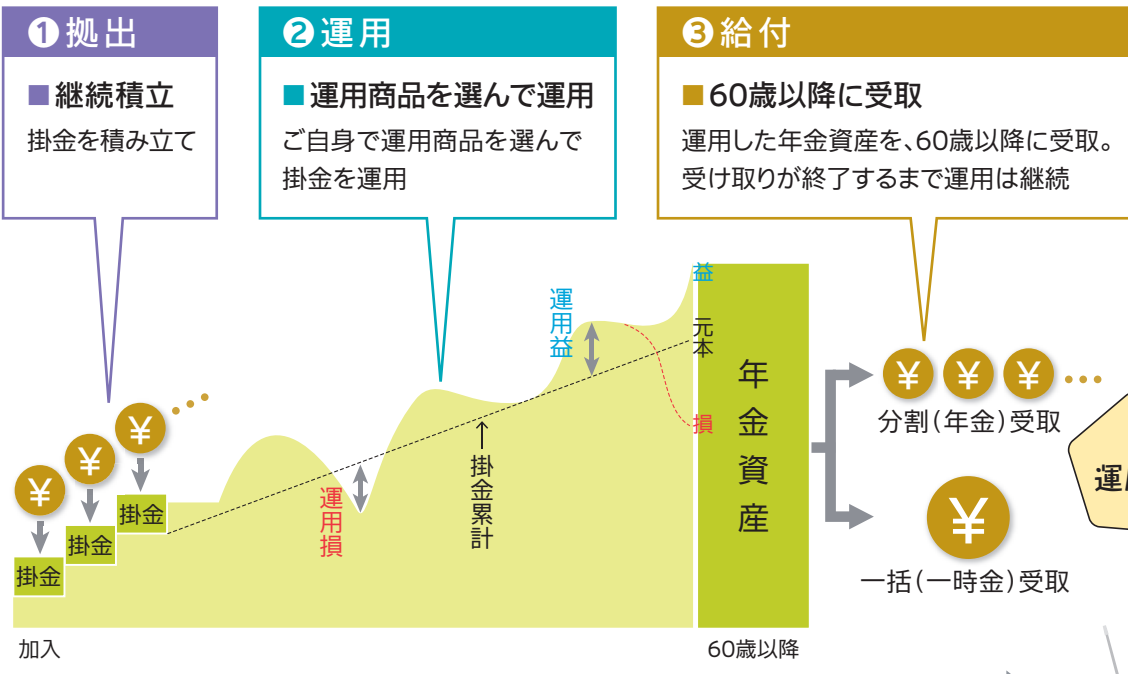


DC制度ではなぜ運用が必要ですか？

Point

DC制度では掛金(拠出金)をもとにした年金資産を受け取りますが、運用により受取額が違ってきます



運用期間(税制優遇あり)

DC制度の場合、運用商品の販売手数料はかかりません。

まとめ

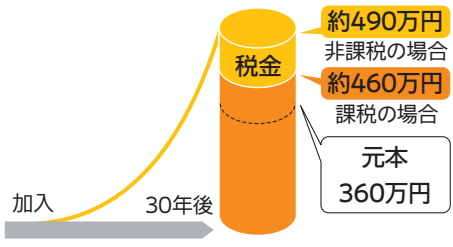
DC制度で受け取る年金資産は、掛金をご自身で運用した資産がもとになります。運用期間・運用商品を考えて運用しましょう。

チェック

■ 税制優遇(運用)

DC制度には、各種税制優遇があります。運用時には税制優遇により、利息・配当・売却益が非課税となります。
※DC制度の積立資産は特別法人税・法人住民税の課税対象ですが、現時点では課税が凍結されています。

毎月1万円の掛金を30年間運用した場合(年利2%)



DC制度以外の通常の金融商品は、運用益に対して20%の税金が課税されます。
※復興特別所得税は反映してありません。

「運用する」とはどのようなことですか？

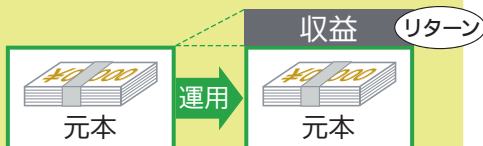
Point 運用商品を購入して資産の増加を目指すことです

- DC制度では掛金(元本)で運用商品を購入して運用を行います。
- 運用商品が元本確保型(保険・預金)の場合は利息等により資産を増やします。
- 投資信託の場合は価格(基準価額)の上昇等により資産の増加を目指しますが、基準価額の下落により、資産が減少することがあります。
- 掛金(元本)より増えた場合は収益となり、減った場合は損失となります。
収益・損失はいずれも「リターン」と言います。

運用商品

元本確保型(保険・預金)

利息等で増やす



※中途解約の場合、運用商品によっては元本を下回る可能性があります。

投資信託

基準価額が上昇した場合は増える



基準価額が下落した場合は減る



増えたか減ったかは「リターン」でわかるんですね。

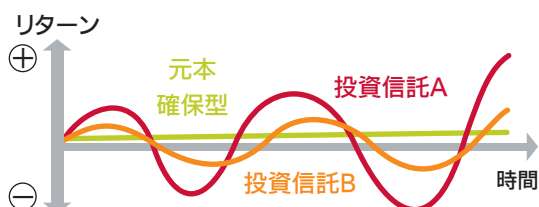


まとめ

「運用する」ためには運用商品を購入します。
その結果、生じる収益や損失を「リターン」と言います。

チェック

運用商品のリターンのイメージ



元本確保型は、あらかじめ定められた利息等が得られます。
投資信託は基準価額の変動によりリターンが増減します。

「リターン」はどのように表されますか？

Point 一般に、運用商品のリターンは、率(%)で表されています

■ 保険・預金は利率で表されています。

設定月	保証利率
2021/10	0.001%

〈リターンが表示されている資料〉

利率実績表

DC傷害保険
商品提供会社：○○○損害保険

■ 2021年12月 適用の保証利率

0.001%

■ 過去10年間の適用保証利率(月末時点)の実績推移

設定月	保証利率	設定月	保証利率	設定月	保証利率	設定月	保証利率
2021/11	0.001%	2018/11	0.001%	2015/11	0.001%	2012/11	0.011%
2021/10	0.001%	2018/10	0.001%	2015/10	0.001%	2012/10	0.011%
2021/09	0.001%	2018/09	0.001%	2015/09	0.001%	2012/09	0.011%
2021/08	0.001%	2018/08	0.001%	2015/08	0.001%	2012/08	0.011%
2021/07	0.001%	2018/07	0.001%	2015/07	0.001%	2012/07	0.031%
2021/06	0.001%	2018/06	0.001%	2015/06	0.001%	2012/06	0.061%

■ 投資信託は過去の基準価額の変動率で表されています。

この場合、リターンがプラスですので、1年前に比べて基準価額が上昇したことを意味します。一方、マイナスの場合、基準価額が下落したことを意味します。

1年
19.33%

運用実績一覧表 (パフォーマンスシート) 基準日：2021年11月30日

当資料は、商品の運用実績の一覧表です。商品の選択や変更しの際の参考としてご利用下さい。各投資信託の基準価額やベンチマークとの比較などは、個々の商品の確定拠出年金向け説明資料(「リターン」)をご参照下さい。

＜説明＞
■ 元本確保型商品の利率実績：当該商品の毎月末の保証利率。預金商品は毎月末の運用金利をそれぞれ記載しています。
■ 元本確保型商品の利率実績：当該商品の毎月末の保証利率。預金商品は毎月末の運用金利をそれぞれ記載しています。
■ リターン(収益率)：一年に運用実績から得られた利益(または損失)を投資額で割って計算します。この値で、投資日と基準日の投資額の増減率を算出して表示します。(分母が0の場合は0と表示し、0%と表示します。)
■ リターン(収益率)の算出：1年間の運用実績(元金)を100%とします。この値がプラスの場合は、リターン(収益率)のプラスが大きいことを示しています。リターン(収益率)の算出は、1年間の運用実績(元金)を100%とします。この値がプラスの場合は、リターン(収益率)のプラスが大きいことを示しています。リターン(収益率)の算出は、1年間の運用実績(元金)を100%とします。この値がプラスの場合は、リターン(収益率)のプラスが大きいことを示しています。
【リターン(収益率)の算出】(リターン(収益率)の算出) = (運用実績(元金) / 投資額) × 100%

■ 元本確保型商品

分類	運用商品名	利率実績(各月末)											
		2021/11	2020/11	2019/11	2018/11	2017/11	2016/11	2015/11	2014/11	2013/11	2012/11	2011/11	2010/11
傷害保険	DC傷害保険	0.001%	0.001%	0.001%	0.001%	0.001%	0.001%	0.001%	0.001%	0.011%	0.011%	0.021%	0.011%

■ 元本確保型以外の商品(投資信託)

分類	運用商品名	リターン(収益率)				リスク(標準偏差)				シャープレシオ			
		1年	3年	5年	10年	1.0年	3.0年	5.0年	10.0年	1.0年	3.0年	5.0年	10.0年
バランス	バランス2.0	19.33%	6.70%	6.92%	11.03%	15.85%	13.90%	15.35%	0.43	0.50	0.72		
アクティブ	バランス3.0	14.38%	5.27%	5.48%	9.32%	12.39%	11.00%	12.66%	0.43	0.50	0.74		

※上記は一例です。

ページ参照 P.54~

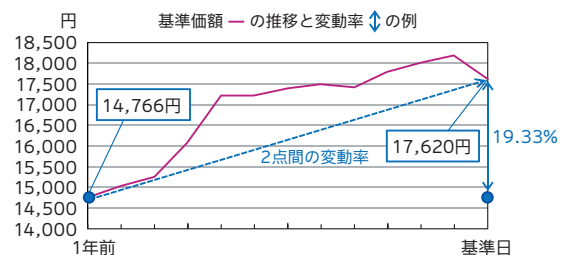
運用の状況は
リターンでみるんですね。

まとめ

「リターン」は運用商品の運用状況を表すものさしのひとつです。

チェック

上記の投資信託の資料で表示されている1年のリターンは、基準日と1年前の基準価額の2点間の変動率です。右記グラフのような月々の値動きはわかりませんが、変動傾向を知ることができます。



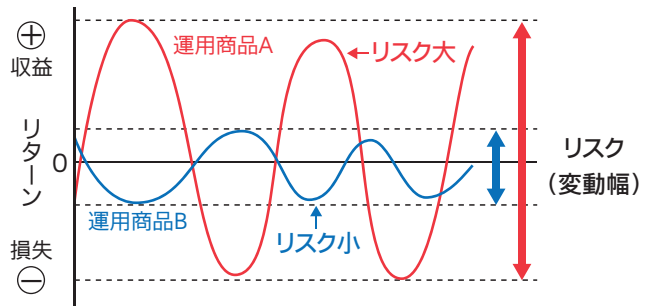
「リターン」が大きければ良い運用商品ですか？

Point

「リターン」の大きさだけでなく
「リスク」の大きさを見ることも大切です

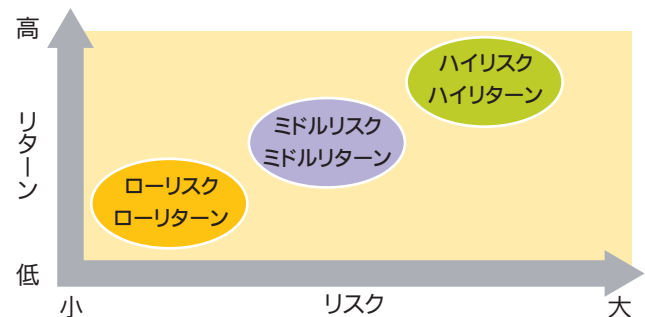
■リスクとは

- リターンの変動幅(ブレ幅、標準偏差)のことを言い、率(%)で表されています。
- リスクというと「危険」や「損失」をイメージしがちですが、運用の世界では、損失(マイナス)のブレ幅だけでなく、収益(プラス)のブレ幅もリスクと言います。



■リスクとリターンの関係

- 一般に、高いリターンを求めれば大きなリスクを伴う傾向があります。一方、安全性を求めてリスクを小さくすると、高いリターンを期待しにくくなります。
- リスクとリターンは表裏一体の関係とされています。



リターンが大きいかほど良いとは限りません。

まとめ

一般に高い「リターン」を期待すると、大きな「リスク」が伴います。



ヒント

- 運用実績一覧表(パフォーマンスシート)のうち投資信託にはリターン、リスク、シャープレシオが掲載されています。
- リスクは数値が大きいほどリターンの変動幅(ブレ幅)が大きかったことを示しています。
- シャープレシオは運用の効率性をみる指標のひとつです。この数値が大きいほどリスクの割にリターンが高かったことを示しています。

運用実績一覧表(パフォーマンスシート)

分類	運用商品名	リターン(収益率)			リスク(標準偏差)			シャープレシオ		
		1年	3年	5年	1.0年	3.0年	5.0年	1.0年	3.0年	5.0年
バランス	バランスファンド20	9.2%	11.5%	9.8%	2.1%	16.9%	16.9%	0.40	0.59	0.52
バランス	バランスファンド30	7.8%	10.2%	8.5%	2.3%	14.4%	14.9%	0.31	0.60	0.35

※投資信託を比べる場合はリターンやリスク、シャープレシオなど総合的に見て判断することが大切です。






運用商品によって

「リスク」の大きさが違うのはなぜですか？

Point 運用商品の投資対象ごとに
影響を及ぼす要因が異なるからです

■ 投資対象に影響を及ぼす要因は、社会情勢・金融市場から生じる株価変動リスク等の各種リスクです。

運用商品の投資対象が外国株式の例

投資対象	要因
外国株式	株価変動リスク 社会情勢 →  政治  国際情勢  企業の業績
	為替変動リスク 金融市場 →  金利  為替

上記リスクは例示であり、運用商品ごとに異なります。

詳しくは
次のページです。

まとめ

運用商品には、どのような種類のリスクがあるのかを知っておくことが大切です。



ヒント

運用商品に影響する「リスク」の種類は、運用商品案内等に記載されています。



■主なリスクの種類



株価変動リスク

株式の価格は、景気、経済、社会情勢、発行体の業績等の変化によって変動します。したがって、株式に投資する投資信託の基準価額も変動します。



金利変動リスク

金利が変動することにより、債券の価格が変動することをいいます。一般に、債券は市場の金利が上昇すると価格は下落し、金利が低下すると価格は上昇する関係にあります。



信用リスク

資金の預け先の金融機関や有価証券(株式・債券等)の発行体の倒産・財務状況の悪化等によって、投資資金や利息等の回収が困難になったり、有価証券の価格が下落することをいいます。



為替変動リスク

外貨建ての有価証券は、有価証券そのものの価格変動に加え為替の変動によって円に換算した資産価値が変動します。

為替リスクを回避するために為替ヘッジを行う場合もあります。ただし、為替ヘッジには費用がかかります。なお、有価証券の価格変動等により為替リスクを完全に回避できない場合があります。



流動性リスク

市場規模や取引量が小さいために、組入有価証券が期待通りの時期や価格で売却できず、損失を被ったり値上がり益を逸することがあります。



カントリーリスク

外国の有価証券はその国の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制等のしくみの中で取引されています。これらの変化によって金融・証券市場に混乱等が生じ、有価証券の価格が大きく下落したり、取引ができなくなることがあります。特に新興国(エマージング諸国)の市場は、先進諸国の市場よりも不安定であり、有価証券の価格が大きく変動する可能性があります。



不動産投資リスク

不動産投資信託証券(REIT)は、不動産の賃貸市場や売買市場、金利環境、天災、経済情勢などの影響を受けて、保有する物件の賃料収入が減ったり、保有物件そのものの価格が低下したりすることで、基準価額や分配金^{リート}が変動する可能性があります。



インフレリスク

インフレとは物の値段が上がることです。物の値段が上がると、お金の価値は相対的に目減りします。お金の価値がインフレの影響で目減りすると、実質的に損失を被ります。